

日本臨床細胞学会奈良県支部平成23年度第1回理事会議事録

平成23年6月16日 午後4時から5時、奈良県医師会館

出席者:安達、今井、浦、榎木、榎本、太田、笠井、清塚、河野、小西、小林、豊田、中村修治、中村幸子、西川、野々村

欠席者:井谷、井上、小畑、川口、鴻池、木枕、島田啓司、島田全康、濱田、古川、松山、山川、中村忍

議題

1. 平成22年会務報告(資料1)

支部長より日本臨床細胞学会奈良県支部の平成22年度の会務報告がなされた。

2. 平成22年度決算報告(資料2)

中村幸子会計理事より平成22年度の会計報告がなされ、監事である榎木登、清塚康彦理事より適正になされていた旨発言があり、了承された。

3. 平成23年度予算案について(資料3)

中村幸子会計理事より平成23年度の予算案が提示され、了承された。

小西理事より、「支部の決算の結果は毎年100万円程度の残金があるが、このような残金の多い会計報告で問題はないのか」との質問があった。

ほかの学会・研究会では実際にどのようにして運営しているのか関連する会合等で意見を聴取してみることになった。

4. 日本臨床細胞学会秋季大会50回記念学会貢献賞受賞者の推薦について(資料4)

奈良県支部にはこれに該当する者がいないので、該当者なしとして報告することとなった。

5. 日本臨床細胞学会近畿連合会、名誉会長・名誉会員・功労会員の推薦について(資料5)

このことについて、会議の席では該当者の推薦者はなかったが、締切が7月15日であり、まだ多少時間があるので、それまでに推薦者があれば支部長の方に連絡することとなった。

6. 平成23年度総会・学術集会ならびにワークショップの件(資料6)

○平成23年度総会・学術集会は奈良県立医科大学病理診断学講座笠井孝彦先生に世話人を依頼することになった。現在のところ、富山赤十字病院病理検査科 前田宜延先生を特別講演に迎えて、11月26日(土)か12月17日(土)に開催予定である。

○本年度のワークショップについては、肺癌、子宮頸部などが候補に挙げたが、討論の結果、“肺癌”で特別講演、細胞診実習を計画することとなった。

7. その他

1) 新理事の推薦

奈良医大病理診断学講座の武田麻衣子、高野将人先生が新しく細胞診専門医となり、新理事に推薦され、了承された。

2) 本会の会費未納者について

本会の長期会費未納者について討議された。討論の結果、奈良県支部会会則には会員の除名、会員資格喪失に関する取り決めはないが、日本臨床細胞学会では2年以上継続して会費を滞納し、督促に

応じない時は会員資格を喪失するとあるので、奈良県支部会もこれに従って厳格に行う必要があるとの意見でまとめ、2年以上滞納した時点でこのまま滞納すると会員資格を喪失する旨連絡し、会費納入の催促に応じなかったり、会員から返答のない場合には自動的に会員資格を失うこととした。

3) 中村忍顧問に関して

中村忍先生は現在日本臨床細胞学会奈良県支部の顧問であるが、細胞学会会員の所在を奈良県支部から石川県支部に移籍したので、このままでよいかどうか討議した。理事の総意および中村忍先生の個人の意見として、このまま奈良県支部顧問として残っていただくこととなった。

4) 清塚康彦理事より、日本臨床細胞学会奈良県支部の活動を発展させていくには、もっと多くの細胞診専門医・指導医を作る方策が必要ではないかとの意見が出された。

これは、以前より奈良県支部が抱えている大きな問題であり、細胞診専門医・指導医のみではなく、細胞検査士も少ないのが現状である。小林理事より、他の都道府県支部との比較を含め奈良県内の細胞診指導医や細胞検査士の実態調査も必要ではないかとの意見もだされた。

支部長より、その大きな原因の1つとしては、奈良県内にはある程度の規模(具体的には150~200床前後)を持つ病院でも、検査部に病理検査がない病院がほとんどで、そのために病理検査が行わず、それに伴って細胞検査士、病理専門医、細胞診専門医・指導医が勤務して活躍できる場所が少ないことがあげられるのではないかとの発言があった。また、病院の機能評価の面からも病理検査の重要性があげられ、病理医を置いて病理検査を行いたいと考えている病院が徐々に増えてきているようであり、これからその環境は少しずつよくなっていくのではないかなど討議されたが、具体的な対策に関するまでの意見の集約はなかった。

5) 河野貢理事から、あまり会に貢献していないので理事を辞退したい旨発言があったが、清塚康彦理事よりそのようなことはなく辞退してもらっては困るとの意見がだされた。討議の結果、河野理事は辞退発言を撤回し、今後も理事として活躍していただくこととなった。

6) 安達博成理事より、例年行われている京都・奈良 古都を結ぶ勉強会は場所や日時は未定であるが、来年の1月から3月の間に SRL 福岡ラボの西国広先生を迎えて行う予定で計画中であること、今年の4月9日、10日に NPO 法人子宮頸癌から守る市民の会と細胞検査士会が一緒になり、パンフレットを配布するなど子宮頸癌の啓蒙活動を行ったとの報告があった。

(文責 野々村昭孝)